

「証拠金取引における「証拠金」とは、取引の元手となる担保の事です。担保ですから多いに越したことはないので、取引額より少ない元手で投資できるのは証拠金取引の特徴の一つです。この仕組みをレバッジといいます。東京金融取引所は差し入れる最低限の額(証拠金基準額)を決めています。基準額は指數の変動実績などによって毎週変わります。日経平均型の取引の場合、現在の証拠金基準額は6万円台です。

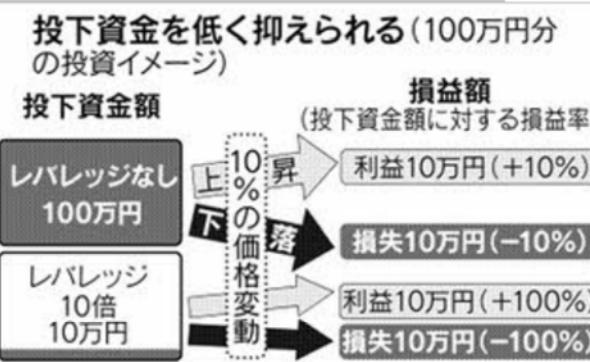
証拠金取引は株価指数の100倍が取引単位になるので、日経平均型1枚の元本は約170万円。つまり、6万円の資金で170万円の取引をすることも可能なのです。もちろん、実際にはもう少し多めの証拠金を差し入れ、安定した取引を行う必要があ

る証拠金取引における「証拠金」とは、取引の元手となる担保の事です。担保ですから多いに越したことはないので、取引額より少ない元手で投資できるのは証拠金取引の特徴の一つです。この仕組みをレバッジといいます。東京金融取引所は差し入れる最低限の額(証拠金基準額)を決めています。基準額は指數の変動実績などによって毎週変わります。日経平均型の取引の場合、現在の証拠金基準額は6万円台です。

株価指数証拠金取引のイロハ ②

少ない元手でも投資可能

ります。何倍のレバッジをかけるのかは重要な選択です。取引している指數の想定元本と、証拠金を含め口座に預ける金額との比率をレバッジ倍率といい、投資家が自分で決めることができます。例えば、口座に10万円を預け、100万円の取引をした場合、レバッジ倍率は10倍です。口座に預けた資金は証



ります。何倍のレバッジをかけるのかは重要な選択です。取引している指數の想定元本と、証拠金を含め口座に預ける金額との比率をレバッジ倍率といい、投資家が自分で決めることができます。例えば、口座に10万円を預け、100万円の取引をした場合、レバッジ倍率は10倍です。口座に預けた資金は証

ります。何倍のレバッジをかけるのかは重要な選択です。取引している指數の想定元本と、証拠金を含め口座に預ける金額との比率をレバッジ倍率といい、投資家が自分で決めることができます。例えば、口座に10万円を預け、100万円の取引をした場合、レバッジ倍率は10倍です。口座に預けた資金は証

岡崎良介